



2004年9月26日深浦で撮影されたトビハゼの成魚。

本種は高知県絶滅危惧II類です。高知県レッドデータブックによれば、浦戸湾は県下でのトビハゼの最大の産地でした。特に、1940年代までは湾内一帯に生息していたとあります。しかし、東岸と中洲（現在は弘化台）の埋め立てにより生息地が奪われ、1960年代には横浜付近のみとなりました。やがて、横浜に護岸が構築され、局所的に見られるのみとなったとあります。

1ページの個体を撮影した後、しばらく深浦でトビハゼの姿を見ることができませんでした。しかし、2004年9月26日に久しぶりで深浦で姿を見ました。成魚が2～3個体いましたが、嬉しことに全長5 cmほどの若魚が20～30個体ほどおり、元気に跳ね回っていました。ただ、ここは大変に狭い場所なので、これ

以上は生息できないかも知れません。横浜にはもう生息していません。私たちが調べた範囲では、浦戸湾のもうひとつの比較的広い生息地は、棧橋通り5丁目の船だまりです。トビハゼは浦戸湾では危機的なのです。



2004年9月26日深浦で撮影されたトビハゼの若魚。

2004年12月8日発行 発行者：町田吉彦（理学博士，高知大学理学部教授，
四国自然史科学研究センターセンター長）

本書の内容の無断複製を禁止します。複製ならびに内容についての問い合わせはFAX 088-844-8310（町田研究室直通）をお願いします。